

踏み跡 <My Mountains>

上州	榛名山と赤城山を結ぶ山旅	No.320
----	--------------	--------

赤城山・榛名山・妙義山をあわせて上毛三山と言う。上越線・信越線での旅をすると必ず目に入って来る、それぞれ特徴的な山容の山である。

赤城山は中学校の遠足で行ったような気がする。都内の学校から観光バスを連ねて・・・昔の学校の遠足はこんなだった。平成10年5月、館林での落語会の翌日に新緑の赤城山登山を体験した。

榛名山と妙義山にはまだ登ったことがない。何故か登る機会が巡ってこなかった。少しずつでも近付いて見ることにした。

平成23年11月1日

11月は天候が安定していて旅には最適な時期である。快晴の空の下、朝食をとらずに早めに出発。

千葉北ICから入って、東関東自動車道・首都高速経由で関越自動車道へ。例によって途中のSAで朝食。渋川ICで下りて、道の駅などを覗きながら県道渋川松井田線を西へとり伊香保温泉へ。そして走りながら助手席でかみさんが携帯電話を駆使して今晚の宿泊場所探し。

榛名湖の畔の温泉宿でもとれたら・・・と思って電話して見たがだめだった。止むなく川古温泉を予約して、まずは榛名湖と榛名山を楽しむことにした。

高度を上げて行くに従って車窓からの紅葉が青空に映えて美しくなってきた。榛名山高原からロープウェイで榛名富士山頂へ。高低差269mを3分足らずで上がってしまう。

山頂駅から階段の続く登山路を進んで行くとわずかな時間で榛名富士の頂上(1390m)に到着。眼下に榛名湖とその周りに立ち並ぶ榛名火山群の様々な形をした山々が一望できる。最高峰の掃部ヶ岳(1449m)、天目山(1303m)、相馬山(1411m)、二ツ岳(1344m)、烏帽子岳(1363m)、鬢櫛山(1350m)など。

小さな起伏や外周の山まで含めると、かなり味のある名前の山が数多く並んで面白い。関東平野が広がる南東の方角を除けばどちらを向いても見覚えのある山々が並び、退屈しない眺めだ。上州の山なみの向こうに奥秩父の山々が、そしてその向こうに富士山も見える。



県道渋川松井田線を下って渋川に戻り県道36号線に入り、子持山と小野子山の間にある中山峠を越えて高山村へ。そして赤根トンネルを抜けて17号線へ。赤谷湖の畔から県道270号線に入って北上わずかで川古

踏み跡 <My Mountains>



温泉に辿りつけるが、まだ時間があるので三国峠まで紅葉見物に行ってみることにした。(左写真：三国峠付近)

川古温泉には宿は一軒しかない、浜家旅館というこの場に似つかわしくない宿の名前が面白い。めずらしく 16 時半にチェックインしたので、宿の裏の林道に入って散歩(何か食えるものはないか?きのこでも)してみたが、全く収穫はなかった。平標山・仙ノ倉山・万太郎山などの谷川連峰の主稜線南面の険しい谷をけずるように流れてきた赤谷川、川古温泉は右岸

の川沿いに建っている。これより上流にはもう人里はない。ややぬる目の温泉は、じっくり浸かってゆったり滞在する人が多いようだ。料理の量も適量で良い宿だ。

平成23年11月2日

天気は晴。朝風呂、朝食の後 9 時に出発。あてもなく彷徨いながら家に向かうことにした。

まずは仏岩トンネルを抜けて水上へ。谷川岳ロープウェイで天神平に上って山の写真でも・・・と思っただが、途中で別なアイデアが浮かび中止。ロープウェイ駅のそばで U ターンして、新アイデア「山岳ドライブ」を楽しむプランに変更。

利根川を遡って藤原湖へ、さらに遡って須田貝ダムまで進み湯ノ小屋温泉へ。木の根沢に沿った県道 63 号線を照葉峡へ、そして至仏山と武尊山を結ぶ静かな坤六峠。

峠からはヘアピンカーブを下って鳩待峠口の津奈木へ出て、戸倉へ。

紅葉は、山頂では風で飛ばされてしまったが谷間の色が見頃な感じだった。戸倉から国道 401 号線を下り、鎌田で金精峠から来る国道 120 号線に合流、老神温泉で 120 号線を離れて赤城山へ。

途中で車を下りて「獲物探し」と土産物探しを繰り返し楽しみながら走り、赤城山の中に入ったらもう 15 時をまわっていた。冬間近の夕方しかももう曇ってしまったので、赤城山の主要部分は寒々しい景色が待っているだけ。車窓から眺めて通り抜けることにした。下界に下りた後は、道の駅や直売店めぐりをしながら走り、高崎 IC から関越自動車道に入って帰宅の途に着いた。

以上

